

あき た 豊 醸 化 計 画

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

芸術祭が
秋田にもたらす
ものは？

秋田を
豊かに醸す
手順を
考えよう！

いまの
私たちは
何画目？

2 0 1 6
11.11
F R I

〈開催時間〉午後6時30分から午後8時30分まで

秋田市での芸術祭？開催を考えるシンポジウム

秋田を「豊かに醸す」をテーマに、美大教授と県内外の活動者が
芸術祭開催の意味などについてパネルディスカッションを行います。

秋田での芸術祭開催に向け、
芸術祭がまちに残すもの・意義
などについて語ります。

〈会場〉

高清水「仙人蔵」

秋田市川元むつみ町4-12



～秋田市での芸術祭？開催を考えるシンポジウム～

あきた豊醸化計画

芸術祭について、皆さんの意見や質問をいただきながら、一緒に考えるこの機会に、ぜひ、ご参加ください。

[司会・進行]



藤 浩志 (HIROSHI FUJI)

美術家・プロジェクトディレクター

1960年鹿児島生まれ。秋田公立美術大学教授。京都市立芸術大学在学中地域社会での活動を志向し京都情報社を設立。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校勤務。都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。国際展やアートプロジェクトの現場で地域資源・適正技術・協力関係を活かした活動を実践。NPO法人プラスアーツ副理事長。十和田奥入瀬芸術祭ディレクター、十和田市現代美術館館長を経て現職。
<http://geco.jp>



石倉 敏明 (TOSHIAKI ISHIKURA)

人類学者

1974年東京都生まれ。芸術人類学・神話学。秋田公立美術大学講師(アーツ&ルーツ専攻)。明治大学野生の科学研究所研究員。共著・編著に『野生めぐり』(写真/田附勝)『人と動物の人類学』『道具の足跡』『折形デザイン研究所の新・包結図説』『タイ・レイ・タイ・リオ細記(高木正勝CD附属神話集)』等。

[パネリスト]



佐藤 裕之 (HIROYUKI SATO)

アドボカシープランナー

1961年秋田市生まれ。大学卒業後、東京でのコンサルタント等の経験を経て1996年に帰郷。羽後設備(株)、風力発電会社(株)ウェンティ・ジャパン等の経営に携わる傍ら、映画『釣りキチ三平』のコーディネーターや、NPO法人スポコンの理事長として、千人街コン、雪寄せ大会など、さまざまなまち興し、官民協働による地域自治組織作りに奮闘。現在、「あるもの」探しを通じて、秋田市の観光資源発掘に着手している。



山本 丈志 (TAKESHI YAMAMOTO)

美術史家

1961年北秋田市生まれ。高校教諭、学芸員を経て、県文化振興課に勤務。主に秋田蘭画、近現代の秋田の美術を研究。2014年から、あきたアートプロジェクトで開催されていた「あきたの美術」展、秋田県若手アーティスト育成支援事業に携わる。2015年第6回日経日本画大賞展推薦委員、2016年VOCA展2017推薦委員を務める。



藤本 智士 (SATOSHI FUJIMOTO)

のんびり編集長

1974年兵庫県生まれ。編集者。有限会社リズ(Re:S)代表。編集執筆を担当した『ニッポンの嵐』など手がけた書籍多数。著書に『ほんとうのニッポンに出会う旅』(リトルモア)、編著として池田修三作品集『センチメンタルの青い旗』(ナナロク社)、イラストレーターの福田利之氏との共著『BabyBook』(コクヨS&T)など。編集長を務めた秋田県発行のフリーマガジン『のんびり』をまとめた書籍を来年2月刊行予定。

参加を希望される方は、秋田市企画調整課までメールでお申し込みください。

ro-plmn@city.akita.akita.jp 先着100名 無料

高清水「仙人蔵」(秋田市川元むつみ町4-12) ※駐車場はありません。

電車とバスでのアクセス

JR秋田駅から秋田中央交通川尻割山線(秋田駅西口8番のりば)・新屋西線(秋田駅西口7番のりば)などで20分、川尻十字路下車、徒歩3分。

車でのアクセス

秋田自動車道秋田南I.C.より国道13号線で秋田市方向へ進み茨島交差点で右折後、信号3つ目を左折してすぐ(所要時間約25分)

